

令和3年度第2回花巻市在宅医療・介護連携推進協議会会議録

1 開催日時

令和4年3月24日（木）午後6時30分～午後7時20分

2 開催場所

花巻市役所本庁舎新館1階会議室

3 出席者

花巻市在宅医療・介護連携推進協議会委員 10名（代理含む）

一般社団法人花巻市医師会 三浦良雄、花巻市歯科医師会 狩野敦史、花巻市薬剤師会 坂本秀樹、公益財団法人総合花巻病院 澤田正志、岩手県立中部病院 齊藤秀典（星野彰代理）、岩手県訪問看護ステーション協議会 平澤利恵子、花巻地区看護管理者会 佐藤久美子、花巻市介護支援専門員連絡協議会 小山田雅広、社会福祉法人花巻市社会福祉協議会 根子裕司、岩手県中部保健所 渡辺一世

市 8名

健康福祉部長 高橋靖

健康づくり課長 長山義博

長寿福祉課 今井岳彦、久保田和子、伊藤幸恵、晴山弥子、山口裕樹、小原香子

4 議事録

（今井課長）

本日はお忙しいところ御出席いただき、大変感謝申し上げます。

委員改選後の初めての協議会であり、本来であれば、ここで委員の皆様をご紹介するところであるが、御手元の花巻市在宅医療・介護連携推進協議会委員名簿の配付をもって、紹介にかえさせていただく。

なお本日は、上川亜矢委員、狩野隆史委員、佐々木千恵美委員、伊藤文子委員は欠席とご連絡を頂いている。また、星野彰委員も欠席であるが、本日は代理で岩手県立中部病院地域医療福祉連携室長の齊藤秀典様に御出席頂いている。齊藤様、どうぞよろしく願います。

花巻市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱第6条第2項により、委員の半数以上の御出席をいただいたので会議を開催する。

ただいまより、令和3年度第2回花巻市在宅医療・介護連携推進協議会を開会する。初めに高橋健康福祉部長より御挨拶申し上げます。

（高橋部長）

委員の皆様には、年度末の御多忙の中、本日第2回となる花巻市在宅医療・介護連携推進協議会に御出席をいただき大変感謝申し上げます。

日頃から福祉部門、健康部門で市の施策に御協力をいただき、あるいは御支援いただいているところにも、改めて感謝申し上げます。

この在宅医療・介護連携推進は、御案内のとおり、医療と介護の連携により、切れ目なく支援し続ける体制の整備を目的としているものである。その中で、本日開催の花巻市在宅医療・介護連携推進協議会は、医療及び介護の関係機関の代表者の方で構成されている組織である。

この会議は、今まで年1回開催してきた次第で、本年度は、昨年7月に開催していた。会議の中身としては、昨年度の事業の報告、あるいは、当該年度の計画についての御説明、それに対する御意見をいただくという形で行ってきたが、この開催時期が、実際妥当かどうかということを事務局としても、少し考えていたところである。

その上で事業の振り返りや今後の計画といったものについて、説明する時期として、この時期のほうがいいのではないかと考え、本年度は改めて本日の会議ということで御案内を申し上げたところである。そうした中で多数の御参加をいただき感謝申し上げます。

本日、ただいま申し上げたように、今年度の在宅医療・介護連携推進の進捗状況の御説明、令和4年度の事業計画について、委員の皆様にご説明をさせていただき、その上で、今後の方向性と皆様の御意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(今井課長)

続いて、次第の3、会長及び副会長の選出について、設置要綱第5条第1項で、会長及び副会長を1名置き、委員の互選により定めることとしている。選出について、委員の皆様方から御推薦をお願いしたい。

(根子委員)

事務局のほうで、もし御提案等があればお願いしたいがいかがか。

(今井課長)

今、根子委員から、事務局案を示していただきたいということであったが、委員の方々は事務局で案を示すということによろしいか。

(異議なし)

事務局としては、会長を三浦良雄委員、副会長を本日欠席の狩野隆史委員をお願いしたいと思う。よろしければ、委員の方々の御承認をいただきたい。

(異議なし)

承認をいただいたことに感謝する。

続いて、次第の4の協議について、設置要綱第5条第2項の規定により、会長が議長と

なり進めていただく。三浦会長どうぞよろしくごお願い申し上げます。

(三浦会長)

皆様、仕事終わりお疲れのところ、出席いただき感謝する。

この会は冒頭の説明のとおり、多職種の団体で成り立って構成されており、皆様の協力、連携がなければ成り立たないため、皆様一致協力してこの会を進めさせていただきたいと思う。よろしくごお願い申し上げます。

それでは早速進行させていただく。

次第の4番の協議に入る。初めに、(1) 令和3年度花巻市在宅医療・介護連携推進事業の取組についての議題について事務局より説明をお願いします。

(久保田課長補佐)

議題の1、令和3年度花巻市在宅医療・介護連携推進事業の取組について報告させていただく。

(以下、資料1に沿って説明)

(三浦会長)

委員の皆様から、今の説明について、御意見、質問、質疑をお願いしたいと思うが、何か質問、意見のある方はおいでか。

特に意見がないようなので、次に(2) 令和4年度花巻市在宅医療・介護連携推進事業計画について事務局より説明をお願いします。

(久保田課長補佐)

資料2に沿って説明する。

(以下、資料2に沿って説明)

(三浦会長)

今の事業計画について、どなたか御意見はあるか。

(澤田医員)

推進協議会と実務者会議の両方に参加させていただいているが、事業計画と先ほどのお話を一通り聞かせていただいて、実際の利用者が何に困っているのか、私たちは全然見えていないのではと気になっていた。この事業計画で非常にいいと思うが、とてもアバウトであり、もう少し市民の方々も含めた動きにしたほうが、地域としてはいいのかと思ったがいかがか。私は自治体の動きがよくわからないので、純粹に今感じたことだけをお話ししたがいかがか。

(三浦会長)

事務局お願いします。

(久保田課長補佐)

実際の利用者の方の要望や状況がわからないというような御発言だったかと伺った。

資料2のほうで示した来年度の事業計画については、大枠を示しているのので、今、澤田先生が発言されたようなことが必要性としてあるかどうか、また、もしくは利用者の方の状況をはかるといふことをどういう手段でやるかというのについては、即答できるものではなく、皆様での検討が必要になることかと思われ、そちらについては推進会議で話し合うというのも一つと思ってお話をお聞きした。

(三浦会長)

澤田先生いかがか。

(澤田委員)

実際、今久保田さんが話したとおりに思ってお話を伺ったが、そこが見えないとどうなのか。ここ何年かこの仕事をさせていただいて、机上の空論になってないのかというのがとても怖いところである。医療職、介護職、福祉職、皆さん一生懸命仕事をさせていただいて、私も頑張らせていただいていると自負しているが、実際いろいろ左右されているのは、利用者、市民の方々なので、その方々がどう思われていらっしゃるのか、それを私たちは忘れかけていないかなと最近すごく感じる。そこら辺を考えないと、実地のものにはならないのではないか。

推進会議で話し合うのは当然のことで、私たちは実務者会議としてそれをやるべきですが、その前に何らかの方法で、市民の方々の御意見などを伺う術はないのか。1回目からそれをもとに、実務者会議が出来ないかと思ったがいかがなものか。御参加いただいている中で、平澤さんが1番その辺り見ていらっしゃると思うがいかがか。

(平澤委員)

澤田先生と一緒に私もずっと両方の会議に参加して、いろんな苦言や苦情、逆のことばかり言って皆さんを困らせている1人ですけど、1番最初に始めたときに立てた目標から、時代が変わってきて、コロナ禍にもなり、実際今現在、私たちの困り事も変わってきている。

コロナの情報がなかったり、在宅療養者さんで困っているところに行きたいと思っても情報がないというところを、もう少し修正しながらやっていける会になっていければいいのではないかと思っている。

推進会議を開催するたびに目標が変わっているのに、この目標は達成出来ていませんと

ということが2年近く続いているような状態である。前回の会議でも話したが、今本当に困っているところにシフトして、その解決を図って、コロナが終息したら改めて、やはりここ頑張っていけないといけないというふうな会にしていけたらいいのではと思っている。

推進会議が始まったところに抽出した課題と今の問題のところがずれており、本来であれば、命や人生会議の話をしていくところが、今はコロナの理解のところにいるが、今、机上で話し合っているのは全く違うことを話し合っているという気がするの、多分私だけではない。会議を重ねていくたびに、何しに来ているのだろう、今回も結論が出ないままに終わってしまっているなという気がしていたのは確かである。

(三浦会長)

いかがか。皆様のご意見を聞きたいと思う。澤田先生はいかがか。

(澤田委員)

平澤さんがおっしゃるとおりで、時事刻々と変わっている中で、私たちがどのように、市民の方々に寄り添って、市民の方々が困っていることを私たちができる範囲内で、どういうふうにサポートできるのか、それを考えつつ最大限に労力、金銭そういうところでカバーできる方法を行政側に模索していただく、これがこの会議を市でやっている本質じゃないのかと思っているところ。

その辺のところを、この推進協議会でお話しすべきお話ではなく、推進会議で一度練ってから持ち上げるべきお話なのかなんかと思っはいるが、ただ、実務者会議ではそんな力は持ち合わせていないので、こういう大きな協議会で、三浦会長を初めとする中枢にいらっしゃる方々のお力をかりながら、その辺りを動かしていければというふうに考えていた。以上です。

(三浦会長)

協議会ではなく推進会議のほうで、もう一度話し合っからのほうがいいと思いますが、1番利用者に接する立場の人たちが訴えを聞くところから、聞いた内容を会議に乗せていくという筋が、1番いいのではと思われるがケアマネジャーの方はいかがか。

(小山田委員)

私自身、今年度から推進会議に参加したということもあり、ちょっとわからない部分が多かった。1年間を通していろんな話題を検討したが、コロナということで、ケアマネ自身も訪問を制限されたり、担当者会議が出来なかったり、退院支援で病院との情報のやりとりが滞ったりなどいろいろあり、情報が得られないというところで、利用者や家族にいい支援が繋がらないというところもあった。以上である。

(三浦会長)

利用者さんからの声を一つずつ拾って会議で披露し、それをみんなで考えるというところを大事にしたいと思うがいかがか。ほかに何か質問、ご意見あるか。なければ協議を終了してよろしいか。

(根子委員)

今、コロナでなかなか住民の皆様が集まる機会がないが、今でも地域の公民館にサロン活動で集まっているところもあり、地域包括支援センターの御協力で、私たちの覚え書きメモをお渡ししながら、将来、何かあったとき、自分はどうしたいのかというようなことを周知させていただいているが、まだまだ、御本人様方は将来のことをどうしようかというお考えがまだまだ薄いので、これからも私たちは地域の皆様に、私たちの覚え書きメモの冊子やかかりつけ医を持ちましょうのチラシを用いて、福祉分野の方面からも周知啓発はしていきたいと思っている。

(三浦会長)

事務局から一つ。

(久保田課長補佐)

在宅医療介護連携推進会議については、対象者の方を中心というような軸から考えると、いろいろな段階の高齢者に関わる様々な職種、機関の方が参加いただいている。今今在宅療養が必要な方、今は元気だけど将来のことを考えていきたいというように考えている方、または家族が心配だという方など、いろんな方に関わる方が参加しているので、いろいろな高齢者の方の声を拾うこともできるのが、連携推進会議なのではと考えている。

澤田先生、平澤さんが関わっている、今、まさしく在宅療養を必要とする高齢者の方についてもそうであり、それ以外の高齢者についてもまず、推進会議のほうで声が拾えるような仕組みを皆様とともに考えていければいいと思っている。

連携推進については、澤田先生がおっしゃったとおり、高齢者の皆様が主役というのを忘れてはいけない分野だと思う。長らくやってきて、関係者の自己満足にならないようにとこれまでも努めてきたところだが、今後もやはり主役は高齢者だということを心にとめながらやりたいと思っている。皆様今後もいろいろな声を聞かせていただければと思う。

(三浦会長)

医師会も去年の目標で、ACP の講演会を開く予定だったが、コロナの影響で出来ず、今年になるかと思うが、やはり根子さんの言われたようなことも、随時進めていかないといけないと思っている。ほかに何かご発言あるか。

(澤田委員)

久保田さんにお伺いしたいが、第1回目の推進会議は、いつごろの予定なのか伺いたい。

時間は極力無駄にしたいわけではないので、先ほど私がお話しした、市民の皆さんの声、各職種で拾える声というのは、それぞれ全く別の視点で拾えると思われるので、それをできるだけ持ち寄って、1回目のスタートとしてみるというのが、市民の皆様方のために私たちが動ける策の一つではとは思っており、皆様それについてはいかがか。御意見いただきたい。

(三浦会長)

事務局お願いします。

(久保田課長補佐)

澤田先生の御提案ですがとてもいいと思われる。集まってから聞きましょうよりは、聞いたものを持ち寄って会議をするというのはとてもいいと思う。

来年度の推進会議の1回目の日時はまだはっきりしていないが、5月もしくは6月の最初頃までには開催したいと考えているので、そこまでに、各団体・機関で声を聞いていただくようにしていただければと思う。

なお、声を聞くにあたり、澤田先生のおっしゃる、市民の皆様の声というのは、例えばどういうものなのか、具体的に例を挙げていただきますと助かると思う。

(三浦会長)

澤田先生お願いします。

(澤田委員)

具体的なものについては、職種によって拾えるものが違うと思う。

私ども医療側としては、医療面、病院の受診、在宅での病気に対しての不安、それに対してのサポートがどうなっているのか。そういうところの不安とか、悩み、それに対して市としてどのような解決策が提示されているか。それに対して自分たちはどう思っているか。実際のところ、市の提案を理解している方々がどれだけいらっしゃるかってのもちょっと不安なところはある。

あとは介護系のほうで、ケアマネから退院調整の会議が行われないと発言いただいた、そのとおりであって、今、病院にそういう方々を入れることが難しくなっている。そういった中で、病院の職員、看護師がどのように考えて、どのようにケアをしているのかをうちの人が知ることが出来ない、福祉の方々が知ることが出来ない、その辺りでどのような不満が出ているのか。どのような悩みが出ているのかということがあると思う。

あと行政のほうとしては、色々今までであれば、介護保険の申請、在宅に向けての支援など全てが円滑に動いていたものが、引っ掛かりがたくさん出てきて、いろんなところで業務

上の、書類上の申請だとか、利用者さんや御家族さんからの、いろんな意見がとまっているところもあるのではないか。

あと消防の方々にしても患者さんを搬送してくるときに、今までであればいろんな情報がケアマネなどから入ってきていたのが、病院やケアマネからの情報が何も来ない中で、患者さんを収容したけどどうすればいいんだというところで動いているのは事実である。

私で言えば、外来で見させていただいている患者さんやその御家族、あとは在宅で見させていただいている患者さんやその御家族になるわけだが、そういう方々からの、御意見、御不満、実際、多々聞いているので、そういうところを持ち寄って、それをすり合わせて、どのように動かしていけばいいのかということを考える場にしたいと私は考えていた。

(三浦会長)

今のことを踏まえて、第 1 回目の実務者会議に臨むということにしたいと思うがいかがか。そのほかに何か委員皆様から意見あるか。それでは、協議は以上と致し、事務局にマイクをお返ししたいと思う。

(今井課長)

次第の 5、その他であるが、始めに事務局から御連絡致したい。

(山口主任)

人事異動などで、現在の協議会の委員に変更などがある場合は、花巻市長寿福祉課まで御連絡をお願いしたい。

(今井課長)

事務局からは以上である。そのほか委員の皆様から何か、その他ご発言はあるか。

それではこれもちまして、令和 3 年度第 2 回花巻市在宅医療・介護連携協議会を閉会とさせていただきます。本日はお疲れのところ参加いただき感謝申し上げます。